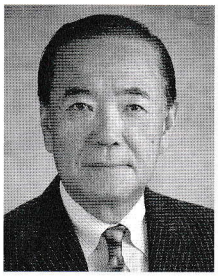


同窓会活動の変革

大中三高会　会長　名渕　薫
（三高24回卒）

会員の皆様には、母校の同窓会活動に変わらぬご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

昨今新型コロナウイルス感染症の蔓延、異常気象による甚大な災害が続き、国内外の予期せぬ情勢変化とともに、生活、経済において不安な日々も続いております。

一方、学校においては半世紀ぶりに新築されました新校舎、新体育館も緑深い校庭となつかしい旧（現第二）体育館、百周年記念館等が溶け込み、落ち着いた佇まいを醸し出しています。

さて、東京オリンピック、パラリンピックもコロナ禍の中、日本選手の多数のメダリストが生まれ、その活躍に沸きました。同窓会の中からもかつて6名が出場され、その中でも浜口喜博氏（大中40回、男木島出身）が、1952年のヘルシンキオリンピック800m男子自由形リレーで2着となり、銀メダリストの栄に輝きました。

また、1964年の東京オリンピックの折、聖火ランナーとして本校生徒18名が参加し、私も当時白鳥本町小学校の4年生で、国道11号より日の丸の手旗を振ったことが、朧げながら懐かしく思い出されます。

本会理事会も7月末に開催し、多数の理事の出席の下、将来に向けた財務面の改革、地区別の役員から若い世代、女性役員の増員に向けて、卒業年度別構成への役員改選等が承認され、新たな同窓会活動の活性化に向けて歩み出しました。

また、香川県内の公立高校の同窓会を対象とする香川県公立高等学校同窓会協議会が発足することになり、同窓会運営の情報交換、事務効率化等各種事業を行う予定で、本会も加入することとなりました。県内各校の同窓会の課題、運営のあり方を共有するとともに、今後に役立てたいと思っています。

近年の少子化による急激な生徒数の減少による学校運営、将来の本会のあり方等の課題も多く、新たな取組みによる変革が必要であると認識しておりまして、地域とともにある母校の維持、発展に向けて、更なる支援が必要なものと考えております。

11月6日には大中三高会総会、懇親会が開催される予定でしたが、コロナ禍の中、残念ですが延期することとなり、また開催日が決まりましたらお知らせしたいと思います。

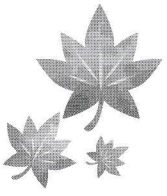
伝統を礎に新たな三高へ

校長　泉谷　俊郎

大中三高会会員の皆様には、日頃より三本松高校の教育活動にご支援をいただき誠にありがとうございます。改めて深く御礼申し上げます。今年度も教育活動を進めていく上では厳しい社会状況ではありますが、安全を確保しつつその中でできる最大限の活動を進めるべく生徒職員力を合わせて取り組んでいるところです。

百二十周年記念事業として校歌レリーフを3月に新体育館に掲げさせていただきました。ご支援を頂きありがとうございます。また、百二十周年記念誌「FROM　TORAMARU」を発刊し、歴史を踏まえつつ未来を見据え、三高の良さと魅力を多くの人に感じていただくための編集をしました。ご覧いただけましたら幸いです。

百二十周年は、これからの三本松高校の在り方を考え、新たな時代に望まれる生徒育成の方向性を定めていく機会でもあります。予測が難しい時代ではありますがどのような状況でもたくましく力を発揮できる柔軟性のある人の育成を進めていきます。物質的には恵まれてきた世の中になった現在、幅広い視野を持ち、多様で新しい考え方や価値観に触れて経験を積むことがより大切になってきています。三高だからこそできる教育活動を生徒に提供し、地域から必要とされる人づくりに貢献できる学校、心から入ってよかった、これから高校に入る世代が学びたくなる学校として、従来からの良き伝統を大切にしつつ新たなことに取り組んでいきたいと考えています。

三高を時代と地域から望まれる学校へと整える基盤として、広く地域からも教育活動を支援していただきたく「三本松高校教育後援基金」という形で教育活動用の基金を独立させていただきました。生徒が県外に体験活動に行く、県外から講師を招く、様々な活動を指導してもらう等の費用や補助として、主に生徒の体験、経験重視の教育活動での活用をし、物として形には残りませんが生徒の今後に生きる活用をしていく予定です。同窓会の方々はもちろん、地域の方にも、三高を応援していただき生徒の教育活動を充実させたい趣旨ですのでご理解ください。また、ご賛同いただける方には、別途ご支援についての案内をさせていただく予定です。

皆様に明るい話題をお届けできるよう三本松高校の教育活動を充実させていきますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。